

東海大学福岡短期大学教育研究年報

2009 年度版 発刊にあたって

本学は、1990 年に、福岡県宗像市に東海大学工学部福岡教養部の後を受けて開学して以来、20 年目を迎えるに至っています。宗像市をはじめとする地域から懇請のあった「情報化・国際化時代に対応できる人材の育成」を設立の目的とし、現在まで 4000 人もの卒業生を輩出してきましたが、時代の趨勢は、短期大学に対して極めて厳しい現状を突き付けています。今後、日本が目指す知識基盤社会形成への一翼を担うためには、教育の質を保証しつつ、新たな時代のニーズに的確に対応し、地域に必要とされる人材の育成が必要となっていることをひしひしと実感しています。

本学は、2002 年度以来、改革の大きな柱に「学びの自由化と個別教育の推進」を掲げ、外部から強いられる「勉強」ではなく、自発的に「なりたい自分」になるための「学び」をサポートするために、「誰でも」、「何時でも」、「何処でも」学ぶことができる教育システムの実現を目指してきました。その成果として、2005 年度には、本学の ICT を活用した「学びの自由化と個別教育の推進」を図るプログラムが、文部科学省「現代 GP」に採択され、e ラーニング教材の開発をはじめ、学生に関する様々な情報を蓄積共有する ICT システム「SRMS(Student Relationship Management System)」(通称「学生カルテ」)や「リアルタイム授業評価」の活用を中心とした、新たな教育支援策を拡充してきました。また、2008 年度には、本学の地域総合連携研究室が中心となって設立した仮想会社「T time」を中核として、地域の自治体、企業などと連携し、学生を社会人として育てることを目的として実施してきた活動が、PBL (Project Based Learning) の理念を具現化した、実践的かつ体験的な教育を推進する「地域活性型人材育成プログラム」として、新たに「教育 GP」に採択されました。

2009 年度には、2002 年度から「短期大学の将来構想に関する研究会(通称 CC 研)」を主催してきた、本学を含む北部九州の 9 短大が申請した「地域の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の強化のための戦略的短大連携事業」が「連携 GP」に採択されました。これを機に、関係 9 校が「短期大学コンソーシアム九州」を結成し、戦略的なパートナーシップのもとに、短期大学の再構築に向け、学生募集等における競合関係を超越して、教育・研究開発に止まらず、数々の研修事業も共同で実施しています。本学は、この中で、「初年次・教養教育の共同開発」事業を主担当校として推進していますが、短期大学だけのコンソーシアムとして、このプログラムが画期的なものであると自負しています。

地域教育活動としては、「学校法人東海大学エクステンションセンター福岡講座」と銘打った教養公開講座を開催、また宗像市に所在する福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学と、市の呼びかけのもとに、大学がもつ資源と情報を広く地域社会へ開放するために「むなかた協働大学」を共同で創設しました。高校との連携事業も隣接する附属高校とだけでなく、近隣の県立高校へと広がっています。

本学の、教育の質の向上を目指して試行してきた数々の活動が、今日の「個別教育」「ICT 技術の活用」「地域を教育の場とした実践教育」という特色ある教育として結実しています。しかし、今後もさらなる改革を進め、より一層魅力ある教育プログラムの開発に向けて邁進する所存です。ぜひ、本冊子に対する、ご意見、ご批判を賜れば幸いです。

2011 年 3 月

東海大学福岡短期大学
学長 西野 仁